

佳作

## りょうりのお手つだい

滋賀県 野洲市立野洲小学校二年 赤川 琴美

わたしは夏休みに、おかあさんがとてもつかれていたので、一人で夕ごはんをつくりました。おかあさんが、近くにすわってどうしたらいいかを言ってくれたので今までのやりかたを思い出しながらつくりました。

どうして、ごはんを一人でつくれるかと言うと、二さいからおかあさんのごはんづくりのお手つだいをしていたからです。

おかあさんに聞くと、わたしはあまりおぼえてないけれど、まい日、たまごをわらせてほしいと、言っていたそうです。そしてどちらがたまごをわるか、よくふたごのきょうだいとけんかをしていました。時どき、やさいの切りかたを教えてくださいました。

おかあさんに、りょうりをする時に大じなことを教えてくださいました。

「てきぱきすること、でも、ていねいに、あいじょうをこめること。」

どうして、こう言われていたかと言うと、わたしがよくしゃべりながら、りょうりを手つだっていたからです。

てつだっている時に、なん回も、

「手を切らないで、気をつけて。」

と言われました。わたしは、うるさいと、思っていました。でも、じぶんのためだから、うるさいと思っていたけれど、言ってくれてよかったです。なぜなら、手を一回も切ったことがないからです。

時間がかかったけれど、やき肉と、たまごやきと、サラダと、おみそしるが、とてもおいしくできあがりました。

お肉をやくのがはじめてだったので、火をつかうのが、とてもこわかったです。でも、やいてみました。じょうずにやけたので、とてもうれしかったです。

おかあさんと、おとうさんが、

「おいしい。」

「おいしい。」

と、たべてくれました。そして、おかあさんが、と

てもよろこんでくれました。よろこんでもらえて、  
とてもうれしかったです。これから、もっとがんば  
って、りょうりをおぼえようと思います。